

学習指導要領の改訂に向けて —構造化と柔軟化—

文部科学省初等中等教育局主任視学官
田村 学

令和8年8月4日
教育課程企画特別部会
参 考 資 料 3

參考資料 3

※ 3 特別支援学校学習指導要領（幼稚園及び小学部・中学部）については、幼稚園・小学校・中学校、特別支援学校学習指導要領（高等部）については、高等学校と同様のスケジュールを想定

教育課程の基準の改訂

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

主体的・対話的で

① 深い学びの実装

生成AIが社会に浸透しつつある中、より一層「深い学び」の重要性が高まっている。教師がそのイメージを掴み取り、授業づくりに生かしやすい学習指導要領とし、「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る。

学習指導要領の構造化・表形式化・デジタル化

質の高い探究的な学び

豊かな学びにつながる学習評価

情報活用能力の抜本的向上

学習の自己調整や学習方略の指導等による個に応じた学習過程の充実

② 多様性の包摂

全ての生徒たちに「深い学び」による資質・能力の育成を図る必要がある一方、生徒たちの多様性は格段に顕在化。子供の実態や課題に応じた教育課程・学習指導を充実・可能とすることで、全ての生徒たちを包摂し、必要な資質・能力を育成する。

その際、民主的で持続可能な社会の担い手を育てる上で、多様な他者と学ぶ学校が大きな役割を果たす。

調整授業時数制度

高等学校の単位制の大幅な柔軟化

特別的教育課程の新設・拡充

デジタル学習基盤の活用

学習の自己調整や学習方略の指導等による個に応じた学習過程の充実

③ 実現可能性の確保

①②の実現・両立は容易ではなく、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合い、実現可能性を確保する必要。教育課程において教師と生徒に「余白」（多様な生徒たちの深い学びを実現するための時間的余裕）を創出し、豊かな学びに繋げる。

調整授業時数制度（特に裁量的な時間（研究・研修等））

構造化等に伴う教科書の精選・必要に応じた内容の精選

授業時数や週当たりコマ数の適正化・平準化

カリキュラム・マネジメントの更なる実装

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

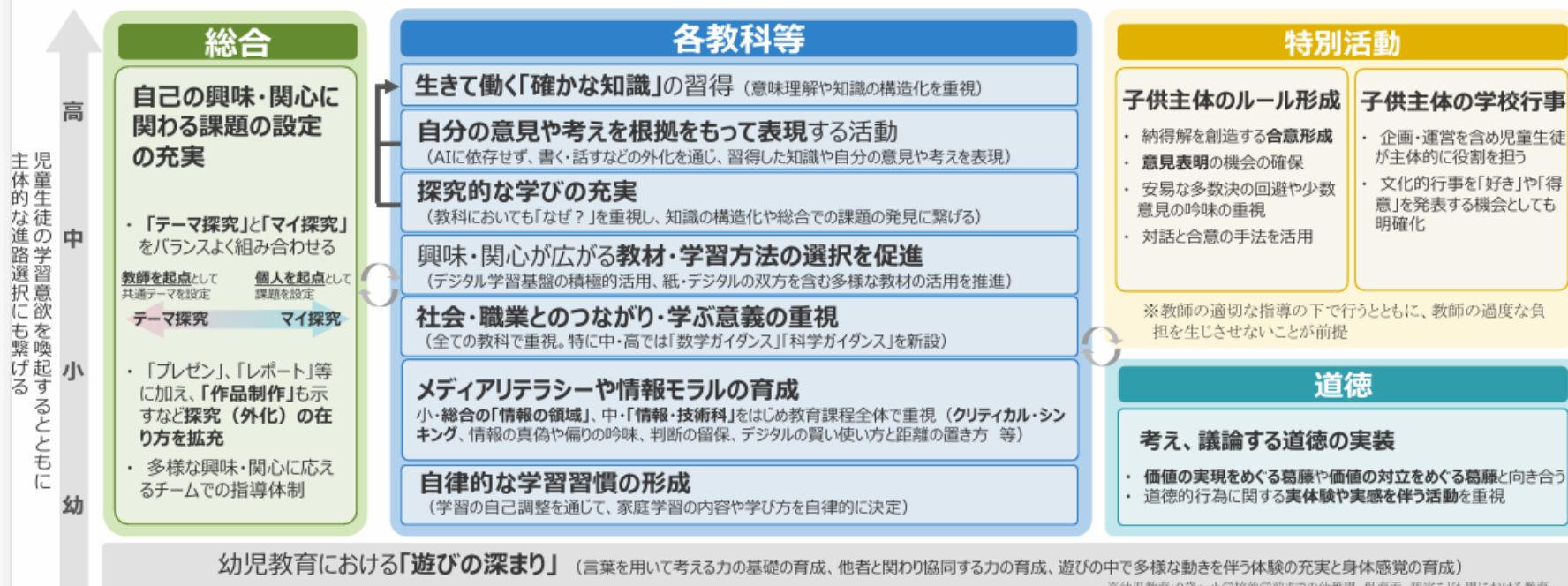
「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 の育成

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)



当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる



多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

「深い学び」の実現のための
「統合的な理解・総合的な発揮」に
向けた授業改善

子供たちの多様性を踏まえた個に応じた
学習過程の充実
（科学的根拠に基づく学習の自己調整や学習方略の指導等、
学習途中のアセスメントとフィードバック）

構造化に
伴う必要
に応じた内
容の精選、
教科書の
精選

全ての活動を通じ、
学びに向かう力・人間性等
の育成を重視

情報活用能力・言語能力の
育成を一体的に充実
（デジタルのみならず一層
身体性を重視）

障害や認知特性等
多様な実態を踏まえた調整
（全ての子供の学びやすさに繋がる授業
設計・環境整備・家庭学習を含む）

全ての活動の基盤となる
心理的安全性の確保
（学級経営、教科指導）

複層的な包摂に向けた
特別的教育課程の新設・改善
（校内外教育支援センターに通う不登校児童生徒（新設）、
特定分野に特異な才能のある児童生徒（新設）、
通級指導・日本語指導が必要な児童生徒）

調整授業時数制度の活用
（一定の要件の下、各教科等の時数を減じて、
教科への上乗せ、裁量的な時間等に活用）

①学習指導要領の構造化

実際の社会で活用できる資質・能力

統合的に理解された状態

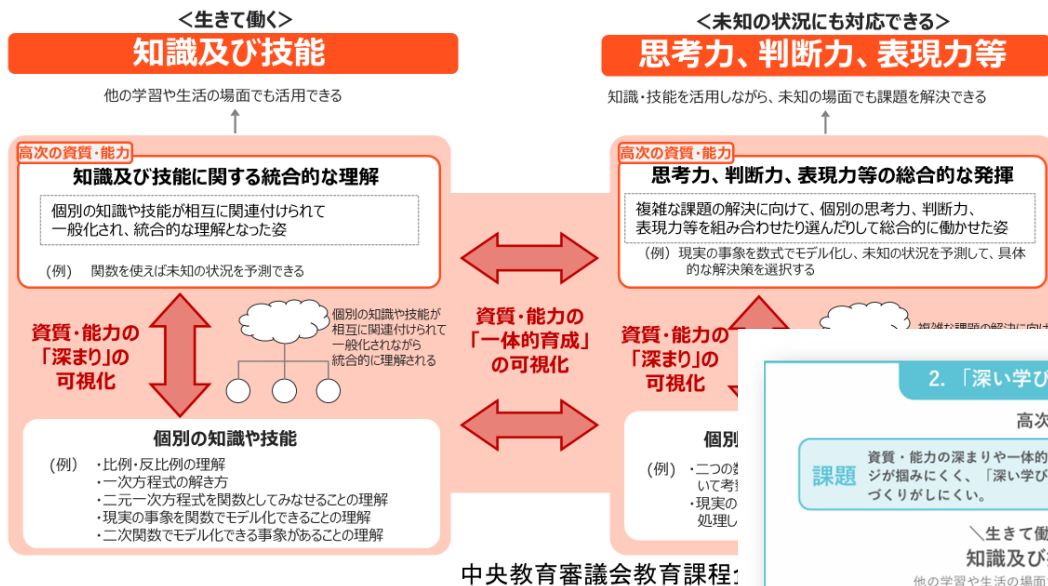
総合的に発揮できる状態

個別の知技

個別の思判
表

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

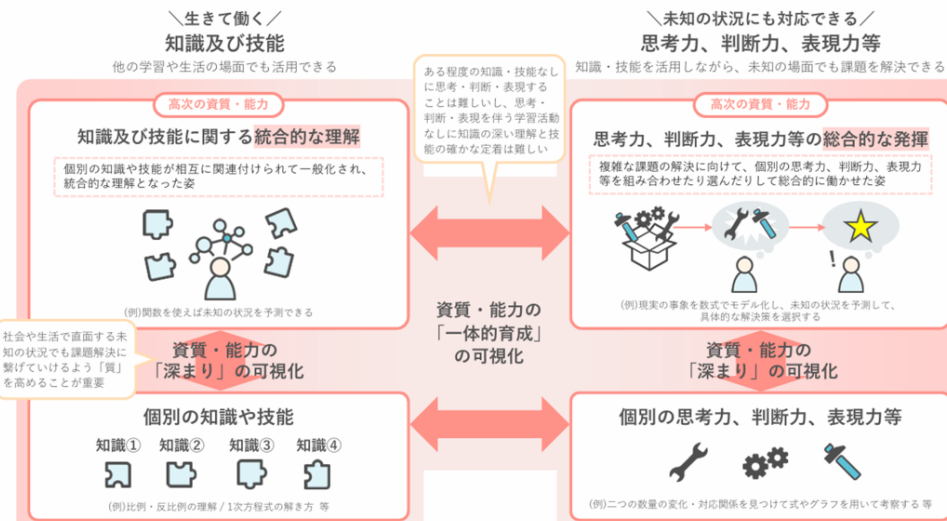
- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
 - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
- ⇒こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



2. 「深い学び」を実現するための分かりやすい学習指導要領に向けた工夫とは？

高次の資質・能力をもとにした一層の構造化・表形式化・デジタル化

課題 資質・能力の深まりや一体的に育成するイメージが掴みにくく、「深い学び」を実現する授業づくりがしにくい。 → 子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの際に教師一人一人が使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。



※前掲の整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、個別・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載。
※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで変る。「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で変化するものではない。

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
 - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
- こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする

＜生きて働く＞

知識及び技能

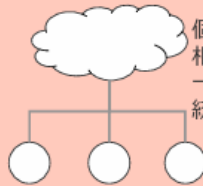
他の学習や生活の場面でも活用できる

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった状態

（例）関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の
「深まり」の
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

個別の知識や技能

（例）

- ・比例・反比例の理解
- ・一次方程式の解き方
- ・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
- ・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
- ・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

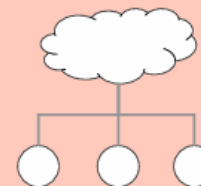
知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた状態

（例）現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

（例）

- ・二つの数量の変化・対応関係を見いだし、式やグラフを用いて考察する
- ・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化



学習指導要領の構造化・表形式化イメージ (中学校数学「数と式」の例)

資質・能力の一体的育成の可視化（「ヨコ」の関係の可視化）

知識及び技能の系列

思考力、判断力、表現力等の系列

内容区分の中核的な概念理解へと至るために、個別の知識や技能といった資質・能力が結集・統合される。

知とスキルを結集・統合して、知識・技能を総合的に使いこなす力。実践志向のプロセスを追記。

	中核的な概念の深い理解 （仮称） この内容のまとまりを通じて理解して欲しい主要な概念等を示す 例：数の範囲を拡張することにより、より広範な事象を一般的かつ明確に表し、計算が能率的にできるようになることを理解する。		複雑な課題の解決 （仮称） この内容のまとまりにおける知識・技能を総合的に使いこなして、思考・判断・表現できる力を示す 例：数の範囲を拡張し、それらの新たな数を用いて、日常生活や社会におけるより広範な問題を解決することができる。	
1年相当	個別の知識及び技能 教科の主要な概念の深い理解を獲得し、思考・判断・表現する上で必要な要素となる知識・技能を示す 例：正の数と負の数 例：正の数と負の数の四則計算 例：具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること		個別の思考力、判断力、表現力等 複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力・判断力・表現力等を示す。 例：既に学習した計算の方法と関連付けて、拡張した数について四則計算の方法を考察し、表現する。 例：様々な事象における問題解決の場面において、新たに学んだ数を活用して問題を解決することができる。	
	例：数の平方根	例：数の平方根を含む簡単な式の計算	例：具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること	
3年相当				
(内容の取扱い)	内容の取扱い 各教科の内容を学習する上での取扱い上の留意点等を示す			

資質・能力の柱ごとの「深まり」の可視化（「タテ」の関係の可視化）

※本イメージは現行学習指導要領を基に構造化・表形式化のイメージとして作成したものであり、実際の次期学習指導要領の構造化案は、今後、総則・評価特別部会や各WGで具体的に検討するもの。本イメージは、あくまで構造化や表形式化の意義を分かりやすくするための一例であることに留意

※令和7年2月17日 第2回教育課程企画特別部会 石井委員提出資料を基に文部科学省作成

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は第9回算数・数学WGの御議論を踏まえて事務局にて修正したもの（今後WGにて審議予定）。「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、高次の資質・能力を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

第5学年相当 単元名：割合（百分率）

（統合的な理解）
・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。
（イ）百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。

（総合的な発揮）
・事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。

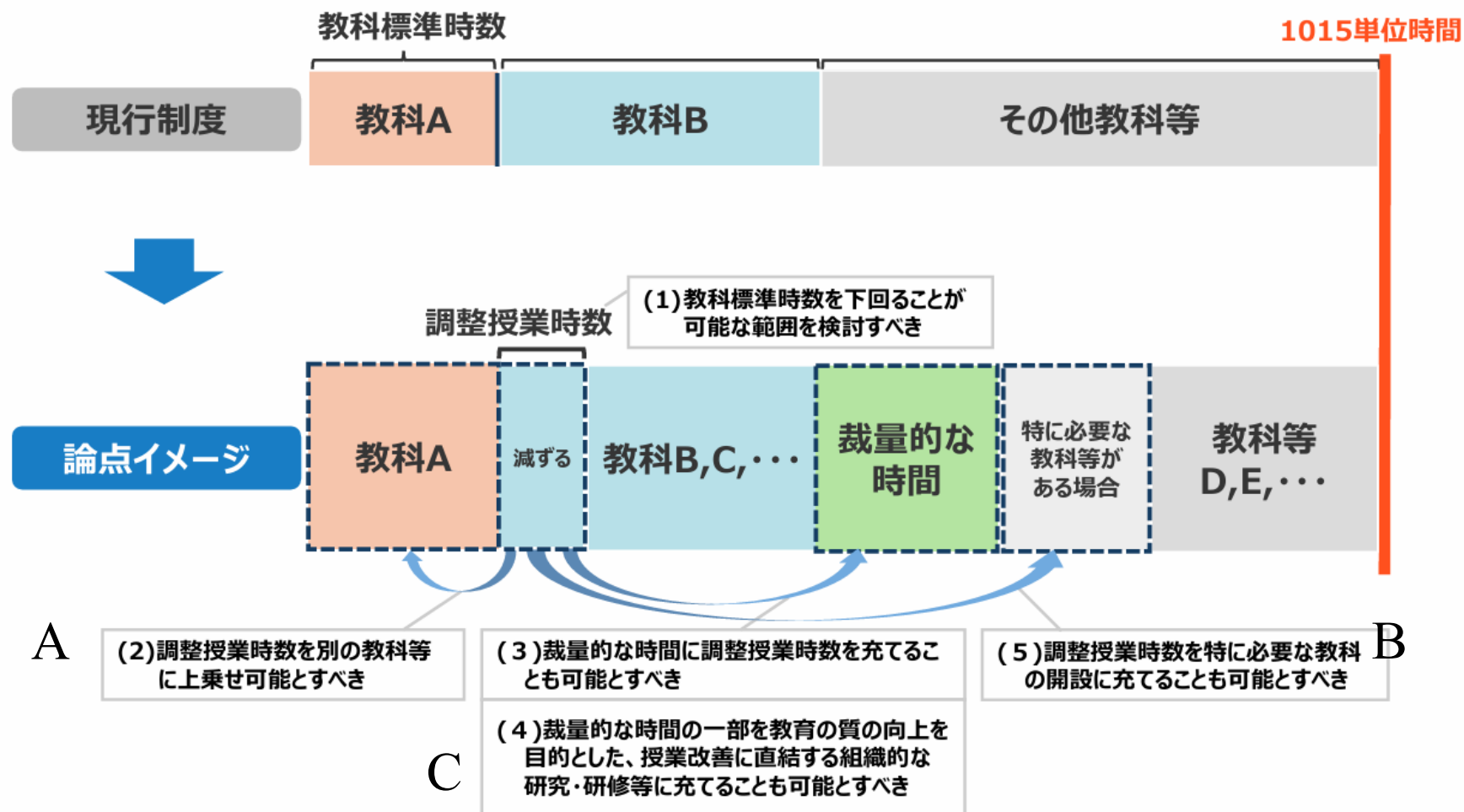
（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。
（イ）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察している。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり			
8 7	●学習の振り返り ●評価課題	二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア）	事象における二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を説明する。（イ）		
6	●日常生活における割合を用いた問題	百分率を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方を理解する。（ア・イ）	二つの数量の関係に着目し、日常場面における百分率を用いた割り引きや割増しの比べ方について考察するとともに、二つの数量の関係どうしを比べる問題を設定している。（ア・イ）		
5	●百分率の問題	百分率を用いて、基準量と比較量の求め方を理解する。（イ）			
4	●百分率や歩合の意味と表し方	百分率による割合の表し方を理解し、割合を百分率で表したり、百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。（イ）			
3	●他の事象における割合を用いて比べる問題	異なる事象でも、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。（ア）	異なる事象（例えば、委員会やクラブの定員に対する希望者数の比較）で、二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定する。（ア）	異なる事象でも、二つの数量の関係に着目し、割合を用いた二つの数量の関係どうしの比べ方が使えるかを考察する。（イ）	
2 1	●二つの数量の関係どうしの比べ方	二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解する。（ア）	二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べられる事象が、他にもあるかを予想する。（ア）	基準量と比較量に比例関係を認め、基準量や比較量を揃えたり、比較量÷基準量で求められた二つの数量の関係を表した数（割合）を用いたりして、様々な二つの数量の関係どうしの比べ方を図や式を用いて考察する。（イ）	
		二つの数量の関係を表した数（割合）を比べる学習であることを理解する。（ア）	入ったシュートの本数と打ったシュートの本数という二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定する。（ア）		
本単元の学習に関連が強い既習内容		（第4学年）簡単な場合についての割合 （第5学年）簡単な場合の比例の関係、小数の乗法及び除法、測定値の平均、異種の二つの量の割合			
		（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】 ・事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている ・他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている ・問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意			

②柔軟な教育課程編成

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



裁量的な時間（学習枠）

1. 個に応じた学習過程の充実

（例）

- ① 個人探究課題の深掘り
- ② 教科等の学習課題に関する自己調整学習
- ③ 認知特性等に応じた個別指導・学習カウンセリング
- ④ 下学年の未習得事項を効果的に学び直すプログラム

2. 学習の素地を高める

（例）

- ① 個人探究を伴う体験活動の充実
- ② 企業・団体等と連携して児童生徒の視野を広げ学習意欲を高める取組
- ③ 言語能力・情報活用能力の重点的育成
- ④ 認知機能強化に着目した取組
- ⑤ 学習方略やメタ認知等の体系的指導

3. 関係性の質向上、学習の一層の円滑化

（例）

- ① いじめ防止や安全に関する教育
- ② 対人関係の基礎となるソーシャルスキル
（対話的な学習の基礎となる人間関係形成の円滑化）

※ こうした取組を特に要する児童生徒を対象として行う場合も考えられ、その場合例えば、①や②の取組を実施する場合に、特に要する児童生徒については③を実施するといった実施方法も考えられる

4. その他

（例）

- ① 特別支援学級・学校との交流・共同学習
- ② 地域の多様な大人と探究的に関わる活動
- ③ 現代的な諸課題に対応した教育活動

【出典】中教審総則・評価特

裁量的な時間（研究・研修等枠）

① 質の高い授業を効果的に実施するための教材研究・授業研究

（例）

- 学校の研究課題に即して行う研究授業・研究協議
- 教科・学年等で計画的に行う教材研究

③ 児童生徒理解の向上など、学習・指導上の課題解決に資する情報共有・協議

（例）

- 担任制やチーム学年制などと組み合わせた子供の情報の共有

※ 単なる打合せや突発的な児童生徒指導事案に関する会議、事務的な情報共有の時間とならないよう、学習や指導の改善と密接に連携させることを前提とする方向性で検討

② 教師の資質・能力の向上を図るための学校・教育委員会が企画する研修

（例）

- 学校・学年等の課題に応じて企画する定期的な研修
- 教育委員会主催研修

※ 裁量的な時間は、当該学校の教育課程に係る教育の質の向上を図るものであり、学校として組織的に実施する研究・研修（学年・教科単位なども含む）以外の研究・研修活動は対象外

④ 学校と地域との連携体制の確保

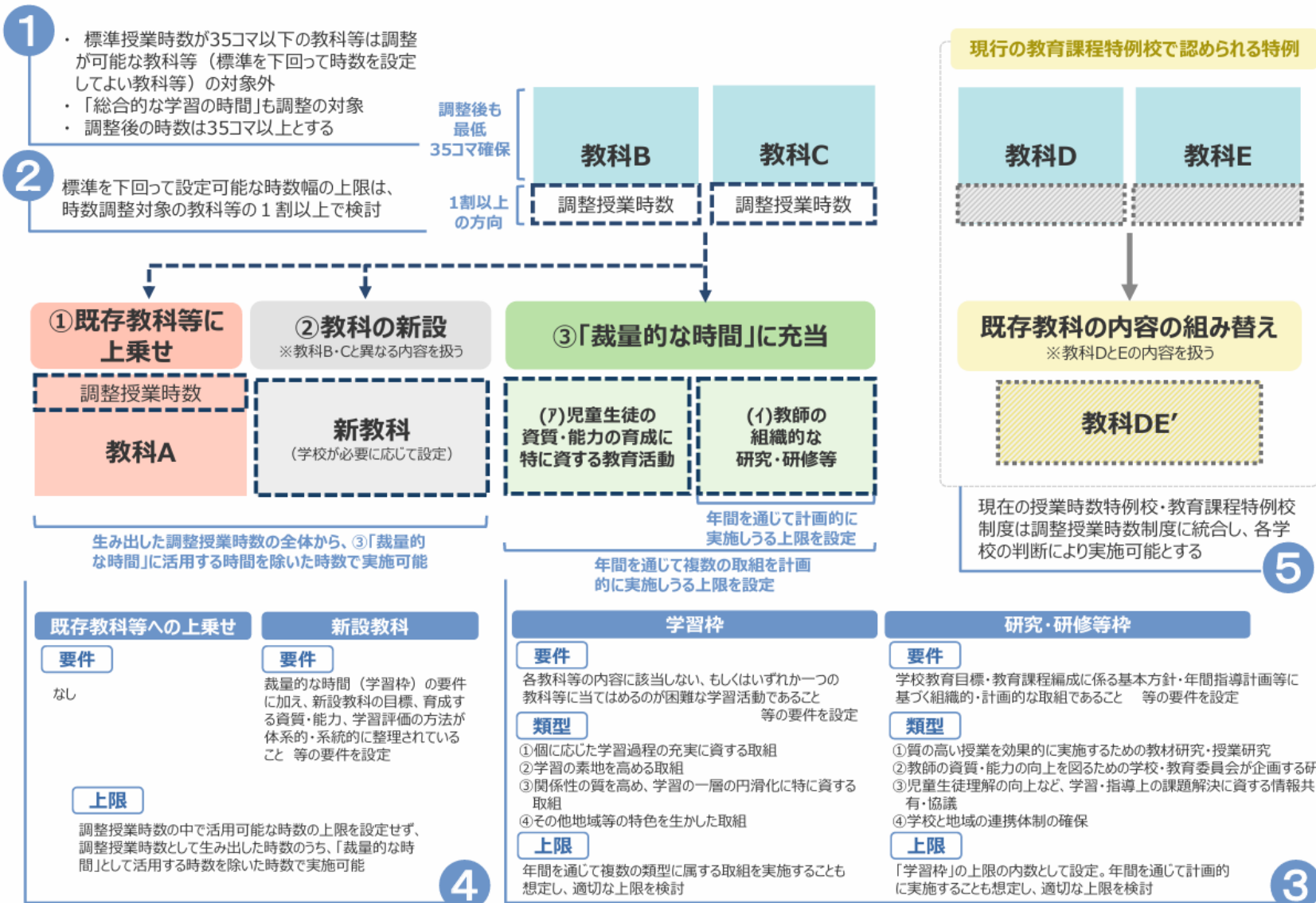
（例）

- 企業・団体等と連携した探究学習の実施に向けた研究会
- 地域の方々と連携したカリキュラム開発に向けた協議

※ 各学校が実現を目指す特色ある教育活動を具現化し、質を向上させるのに必要な取組を対象とする方向性で検討

【出典】中教審総則・評価特別部会（第5回）資料1を簡略化して作成

調整授業時数制度の仕組みの方向性（イメージ）



1. 資質・能力の育成に向けた 主体的・対話的で深い学び

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか



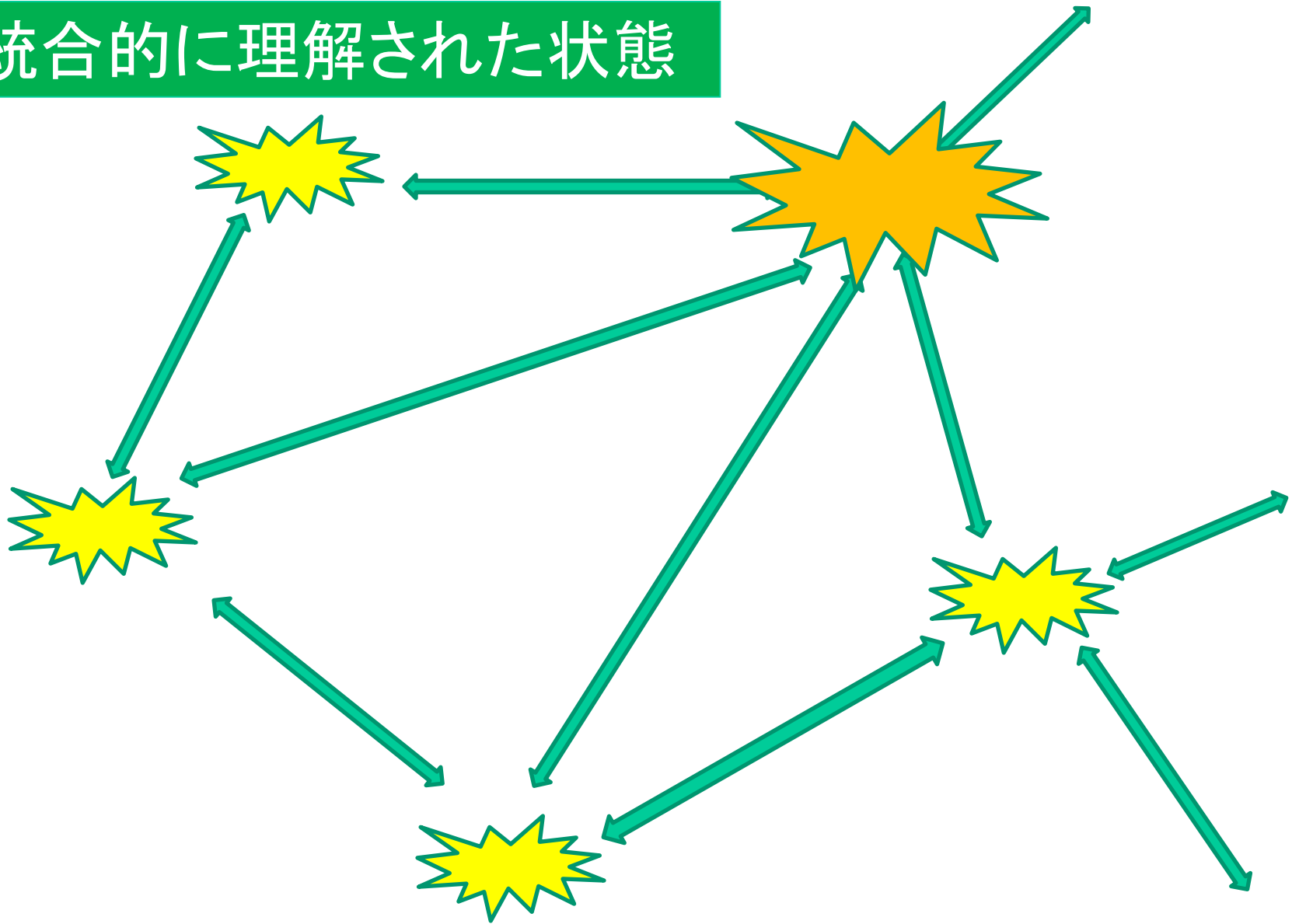
何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

統合的に理解された状態



2. 「深い学び」を実現するための分かりやすい学習指導要領に向けた工夫とは？

高次の資質・能力をもとにした一層の構造化・表形式化・デジタル化

課題

資質・能力の深まりや一体的に育成するイメージが掴みにくく、「深い学び」を実現する授業づくりがしにくい。



子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの際に教師一人一人が使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。

／生きて働く／ 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿



(例)関数を使えば未知の状況を予測できる

社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要

資質・能力の 「深まり」の可視化

個別の知識や技能

知識① 知識② 知識③ 知識④



(例)比例・反比例の理解 / 1次方程式の解き方 等

／未知の状況にも対応できる／ 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿



(例)現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の 「深まり」の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

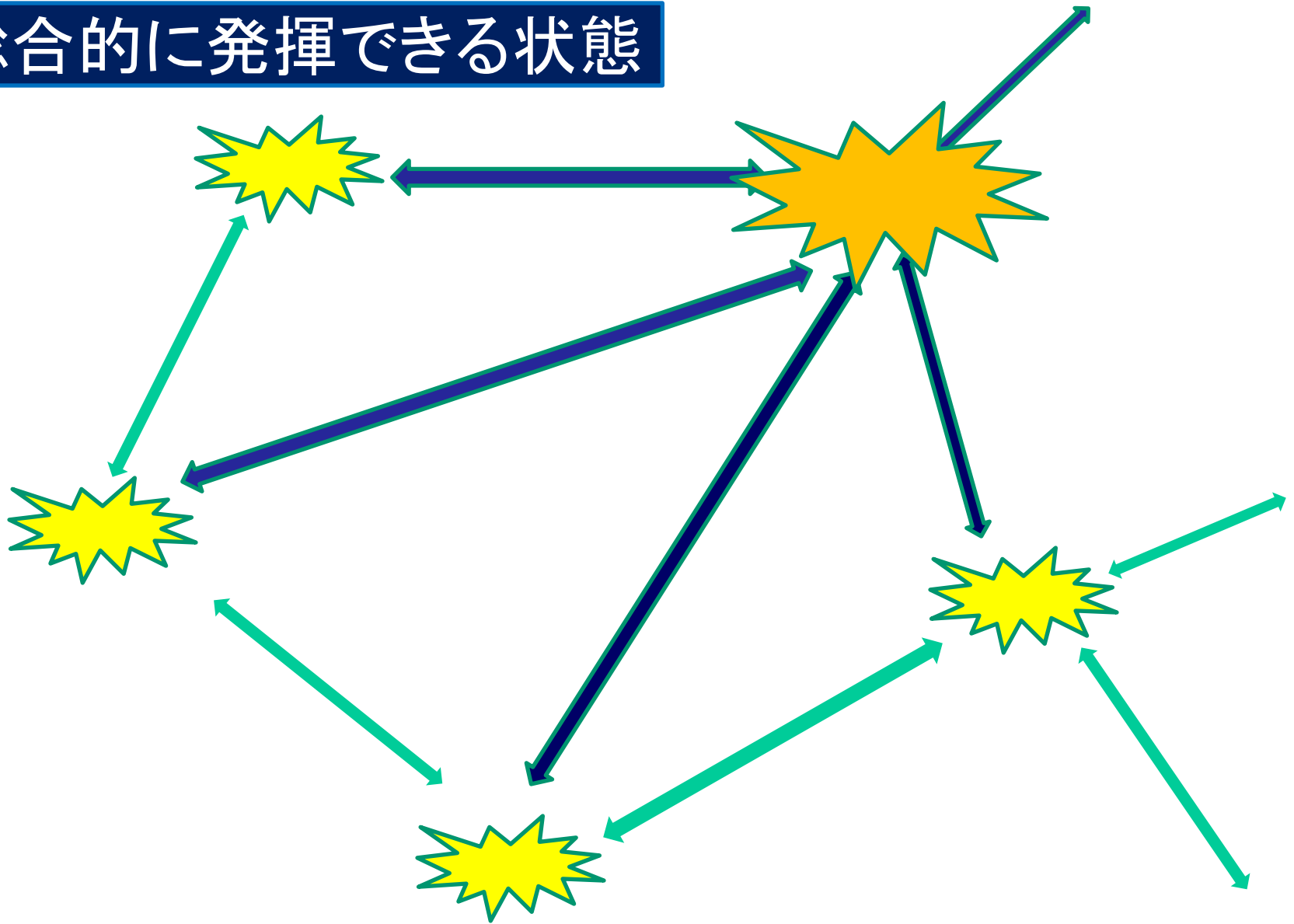


(例)二つの数量の変化・対応関係を見つけて式やグラフを用いて考察する 等

資質・能力の 「一体的育成」 の可視化

※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載
※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

総合的に発揮できる状態



知識・技能が目的や価値、手応えとつながる

学びを人生や
社会に生かす

学びに向かう力
人間性等

「個別の知識及び技能、個別の思考力、判断力、表現力等について、一体的に育成しつつ、それらの統合的な理解と総合的な発揮を促す学び」

(中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会8年8月4日配布資料)

関連付いて高度化し、**駆動**する状態に向かうこと



知識・技能

生きて働く

思考力・判断力・表現力等

知識・技能が相互につながり
(空間・時間)

未知の状況で
活用できる

知識・技能が場面や状況とつながる

深い学び

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」



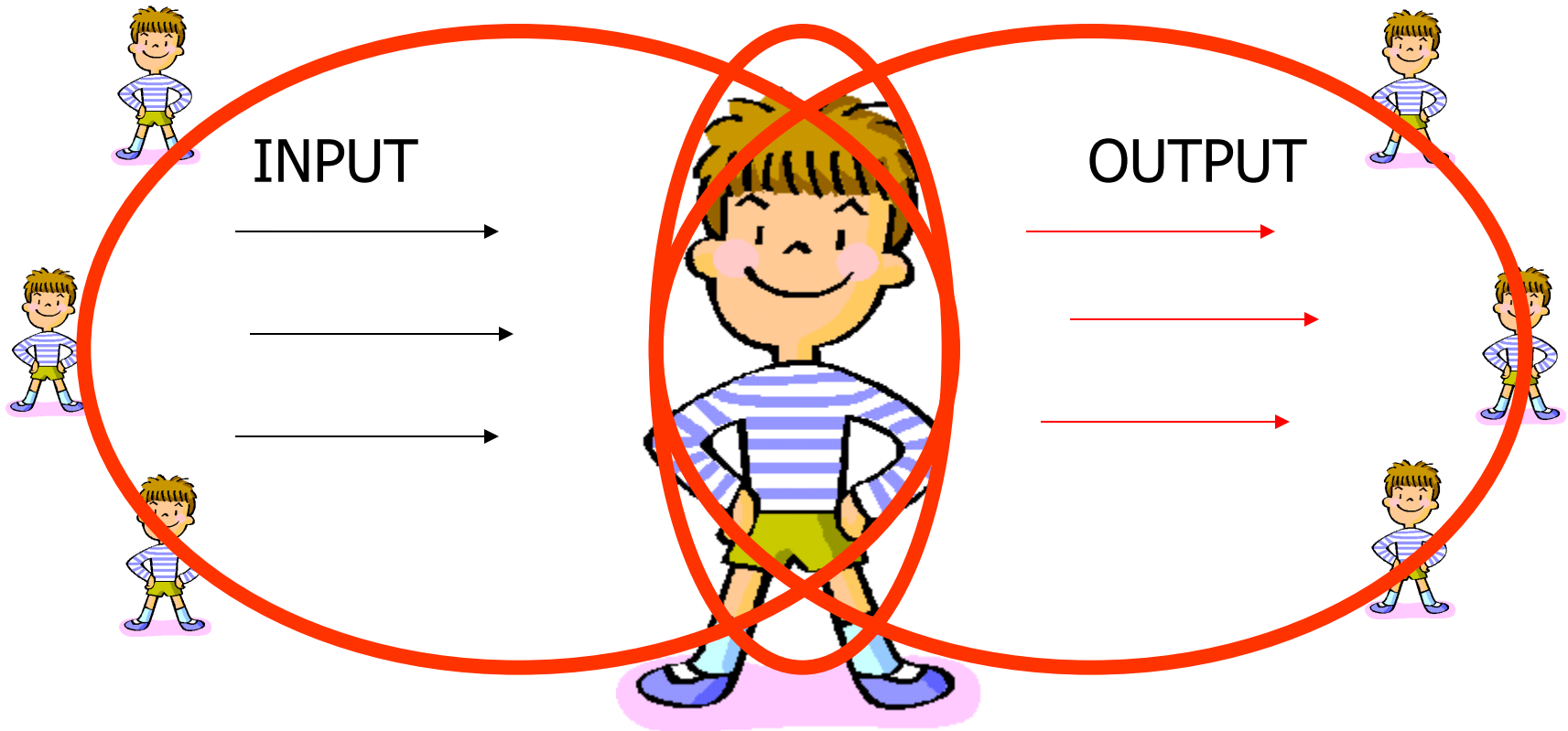
「活用・発揮」

「外化」

A: 内化する



B: 外化する



検討項目⑤ 学習の基盤となる資質・能力

(2) 言語能力と情報活用能力との関係性について (補足イメージ①)

- (1) で述べた情報活用能力・言語能力それぞれの資質・能力の全体像については、参考資料②及び③の方向性で各WGで議論が行われているが、現行指導要領の下でも「言語能力だけ」「情報活用能力だけ」に力をいれて研究に取り組む学校が見られるなど、「学習の基盤となる資質・能力」としての一体的理解が進んでいない実態も見られる。
- 言語能力と情報活用能力は、相補的に働くことで効果的に育成・発揮できるものと捉えることができ、その関係性を以下の通り整理することで、学校現場にとって趣旨が伝わりやすく、取り組みやすいものになるのではないか。

【言語能力】

※ 今次改訂で進める単元のまとまりごとの授業づくりを助け、「深い学び」の実現に繋げるためにも、言語能力の発揮による「外化」(注)が鍵を握る。

(注)書く、話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

※ 今次改訂で進める単元のまとまりごとの授業づくりを助け、「深い学び」の実現に繋げるためにも、言語能力の発揮による「外化」が鍵を握る。

(注)書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

【情報活用能力との関係】

- 言語能力の基礎の上に情報技術を活用すれば、言語と言語以外の情報を組み合わせたり、情報を効果的・効率的に再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的・時間的制約を超えて広く発信したりするなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくことが可能。
- 一方で、情報技術の活用が「外化」をはじめとする言語能力の発揮を促す活動を欠いて行われた場合、身体性に根ざした人間ならではの価値の創造や意味理解を欠いた、空疎な情報の集積・共有となる恐れもある（例：言語による外化なしに生成AIが生成したものをそのまま使うなど）
- ※ 思考・判断・表現の過程で、言語能力を発揮するに当たっても、情報技術を活用して思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張することで、より質の高い「外化」が可能となる。
- ※ こうした空疎な情報の集積・共有が、誤情報の拡散やそれによる誤った認識の拡大といった負の側面の顕在化を招いている
- 以上のような言語能力と情報活用能力のそれぞれの特質や相補的な性質を踏まえながら、いずれも学習の基盤として着実な育成を図ることの重要性を示す事としてはどうか。

「多様な子供たちの深い学び」を支える学習過程

1-3-20



＼知識及び技能／
統合的な理解

＼思考力・判断力・表現力等／
総合的な発揮



＼学びに向かう力・人間性等／

「外化」を通じ、習得した内容の意味が一層理解されたり既有的経験や知識と結びついたりして、理解が確かなものとなる

資質・能力の深まり
（「確かな知識」の習得）



学びに向かう力・人間性等の要素の一体的育成が、子供たちが個に応じつつ学び合い、深い学びを実現していくために不可欠

身につけた資質・能力を組み合わせ、未知の場面でも複雑な課題の解決ができるようになる

論述・レポート・作品制作等を通じ、習得した知識・技能を「外化」する

「外化」
（書く、話す、作る等）

資質・能力の深まり

質が高く効率的な「外化」を支え、学習の基盤となる

統合的な理解・総合的な発揮に至ることができるような問いや評価課題・学習過程のデザイン

学習の基盤となる資質・能力



言語能力

言語による情報を理解してそれを基に思考し、文章や発話により表現する力



情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく力



個に応じた学習過程の充実

自己調整できる機会

学習方略の指導

メタ認知



一斉・協働・個別といった学習場面の効果的な配置

相互に学び合える心理的安全性の確保（教科指導・学級経営）等

子供によって多様な特性等があり、学びが深まる過程は様々。自らに適した学習過程を可能とできるような工夫が必要。

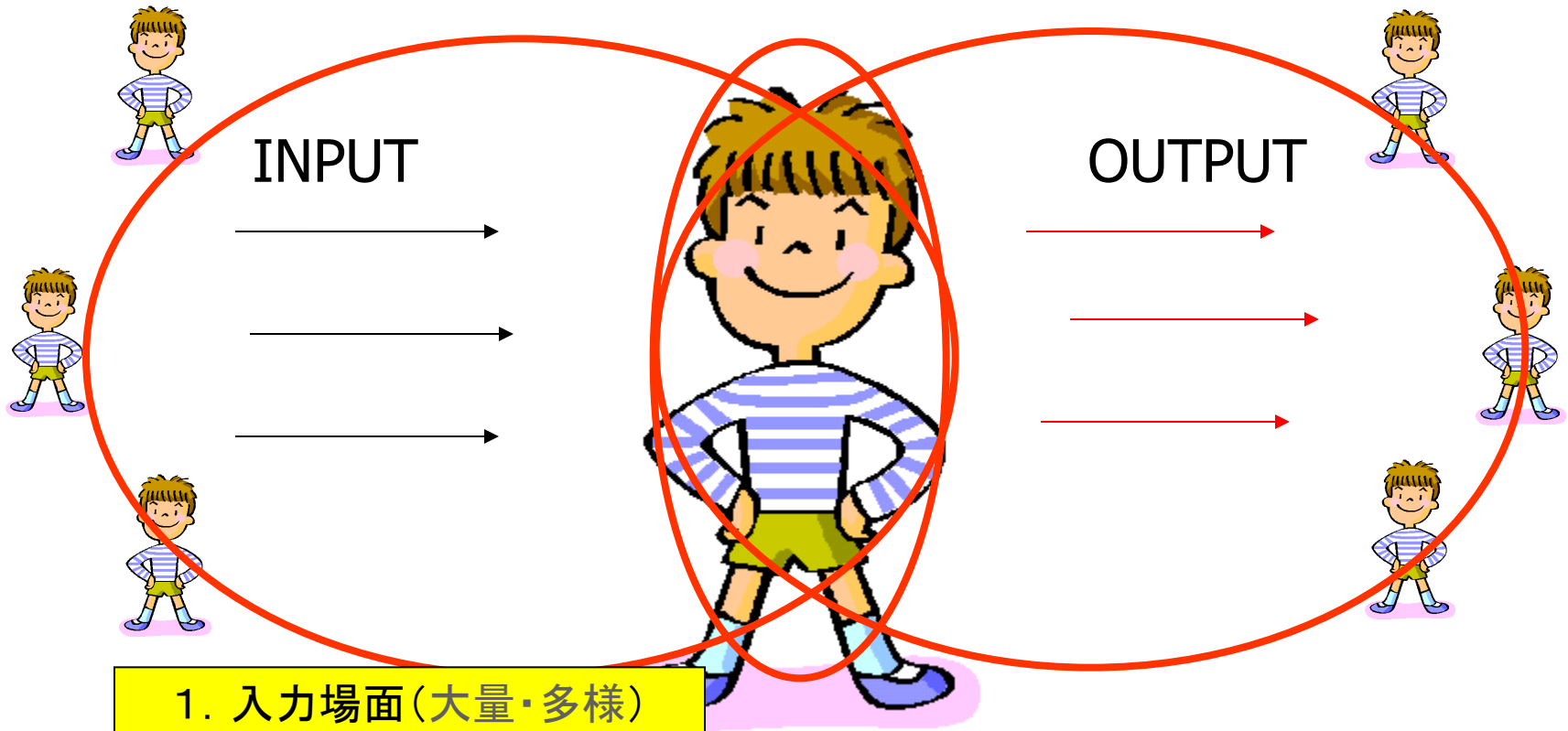
※上記は特定の教育方法を想定する趣旨のものではなく、児童生徒の学習過程のイメージを示したものである

452

A: 内化する



B: 外化する



1. 入力場面(大量・多様)

2. 処理過程(可視・操作)

3. 出力場面(増量・活用)

4. プロセス(頻回)

「考えるための技法」の示し方の見直し（イメージ）

- 現在、「考えるための技法」は、10個の例が単純に羅列されており、また考えを発散させる思考が含まれていないなど、**教師や学習者にとって必ずしも使いやすいものになっていない**との指摘がある。これらの技法は、「行動系」「研究系」「創作系」といった探究の在り方に関わらず**共通して活用し得るもの**であり、**総合における多様な探究を支えるとともに、ひいては各教科等の学びの深まりにも貢献し得る**ものと言える。
- こうしたことを踏まえ、今回の改訂では、現在の「考えるための技法」を、**探究において新たな考えや価値を創造していくための具体的な手立ての1つとして、当面発散の観点を追加するとともに、発散と収束の観点から分類**してはどうか。また、**今後、学校現場等の多様なアイデアや学術的知見を収集してその在り方も含め改善**してはどうか。

※ 要素はあくまでも例であるほか、明確なグループ分けも困難であることから、以下はあくまでも大まかな整理の例であることに留意。

	例	説明
主に 発散	広げる 等 (発想・視点移動)	自由に発想する できる限り多くのアイデアを出す。
	組み合わせる 要素を結びつけて、新たなアイデアを生み出す。	
	多面的・多角的に見る 一つの対象を、異なる立場や視点から捉え直す。	
	具体化・抽象化する 対象を具体例や要素に分けて捉えたり、複数の対象に共通する性質をまとめて一般化したりする。	
主に 収束	整理する 等 (比較・分類)	比較する 共通点や相違点を明らかにする。
	分類する ある視点に基づいて、グループに分ける。	
	関連付ける 対象間の関係やつながりを見いだす。	
	深める 等 (論理・見通し)	理由付ける 前提や原因、根拠を明らかにする。
	順序付ける 順序に着目し、筋道を立てて並べる。	
	構造化する 対象を、関係性や階層性をもとに整理する。	
	吟味する 対象の妥当性や信頼性を、根拠をもとに確かめる。	
	焦点化する 注目する特徴や対象を絞り込む。	
	見通す 先の展開や結果を、根拠をもとに予測する。	

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

参考資料①

○自己調整学習のサイクル

自己の学習状況を把握（メタ認知）しながら方略を工夫して学習を進める

遂行（学習中）

目標の設定や、効果的に進める工夫（方略）などの計画を行い、興味や自信をもつ

予見（学習前）

「自己調整学習」
3つのサイクルを自律的に
循環させ、学びを深める

内省（学習後）

学習結果の原因・理由や方略の効果等について振り返り、次の学習につなげる

(Zimmerman&Schunk(2001))を基に作成

自己調整学習の効果を高め、学習成果に繋がりやすくする

○自己調整学習の効果を高める方略の例

参考資料⑧参照

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習方略

学習内容をよりよく理解し、定着させることができるよう学習中の情報処理の方法等を工夫する方略

参考資料⑨参照

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

(Usher&Schunk(2018))を基に作成

子供達の方略の工夫・発揮を支える

○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている

直接的な指導

「～しましょう」等の形で発揮させたい方略を直接的に指導

間接的な指導

「～したいときはどうすればよいか」等の形で、方略を間接的に気づかせる

学習環境設定の工夫

教師による指導は行わず、子供自身が自然と方略を工夫するような学習環境を整える

(Dignath et al. (2022))を基に作成

◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例

(単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載)

参考資料⑩参照

単元や題材の設計

- ・ 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- ・ 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- ・ 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

多様な学習材料の提供
足場かけの準備

- ・ 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供
- ・ 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供
- ・ 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

学習環境の整備

- ・ 安心して学習に取り組める空間づくり
- ・ デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする 環境づくり 等

2. 多様な子供の実態に対応した カリキュラム・マネジメント

【現行】カリキュラム・マネジメントの充実

■カリキュラム・マネジメントの三つ側面

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の**内容を組織的に配列**していくこと
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDC Aサイクルを確立**すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の**資源も含めて活用**しながら効果的に組み合わせること

「3ステップ」によるカリキュラム・マネジメントの再整理（「カリマネの3ステップ」） 補足イメージ②⑧

手段の目的化を防ぎ、基本的な考え方とプロセスを一体的にわかりやすく示すため、「**ねらいの明確化—編成・実施・調整—評価・改善**」の「**3ステップ**」の循環として再整理

その中核的な方策として、調整授業時数制度や単位制の柔軟化を位置づけ、カリマネの意義・目的・手段を具体的にイメージしやすく明確化

現行の示し方の課題

学校の判断で柔軟に変更できる範囲が限定的なものが多く、具体的に作業がイメージしやすい「単元配列表」の作成等のみが目的化してしまう傾向

↓
学校が調整可能な範囲を大幅に拡大する「**調整授業時数制度**」等をカリマネの中核に位置づけ

「ねらいの明確化」「計画・実施」「評価・改善」といった段階が混在して示されており、**目的と手段の関係が捉えにくい**

↓
「**ねらいを明確化**」した上で、その**達成手段として「教育課程の編成・実施・調整」や、「人的・物的環境の整備等」に**取り組み、そして「**ねらいの達成状況を評価し改善に繋げる**」という関係性を整理して示す

現行の「カリマネの三つの側面」がカリマネの手順に沿っておらず、また解説で示すカリマネの手順との関係性が**不明確**で取組全体の流れを捉えにくい

↓
カリマネの基本的な考え方とプロセスを**一体のものとして**分かりやすく示す

現行学習指導要領における「カリマネの三つの側面」（総則）

① **児童や学校、地域の実態を適切に把握し**、教育の**目的や目標の実現**に必要な教育内容等を**教科等横断的な視点で組み立てていくこと**

② 教育課程の実施状況を**評価してその改善**を図っていくこと

③ 教育課程の実施に必要な人的または物的な**体制を確保**するとともに**その改善**を図っていくこと

新たなカリキュラム・マネジメントの考え方（カリマネの3ステップ）

ステップⅠ. ねらいの明確化

ねらいの明確化

- ・ 見取りや各種調査・デジタル学習基盤から得られるデータを基に実態把握
- ・ 学校教育目標等を踏まえ、育成を目指す資質・能力や指導上の課題の共通理解を図る
- ・ 必要に応じ学校教育目標や学校経営方針等の見直し 等

ステップⅡ. 編成・実施・調整

教育課程の編成・実施・調整

- ・ ねらいの実現に向け、教科等の時数・日課等を検討
- ・ 教科等横断的な視点を踏まえ、単元を構成・配列
- ・ 実態や年度途中に生じた課題に応じて、教育課程を柔軟に調整
- ・ 何を実施するかだけでなく、ねらいに照らした取組の重点化も重視 等

人的・物的環境の整備

- ・ ねらいの実現に向け、校務分掌等の校内体制整備、備品・教材等の確保
- ・ 学校運営協議会や保護者、地域等と連携した体制構築 等

ステップⅢ. 評価・改善

ねらいの実現状況の把握と評価・改善

- ・ 学習評価の状況や、児童生徒向けアンケート・ヒアリング、学校関係者評価等を通じてねらいの達成状況を把握（※2）
- ・ 把握した状況を踏まえ、教育課程や授業の改善に向けた評価・改善の検討

時数・単位数の柔軟な調整や、裁量的な時間の活用等（※1）

調整授業時数制度や柔軟な単位制の活用

（※1）各ステップで裁量的な時間（研究・研修等枠）を適宜活用

（※2）カリマネのためだけの把握手続を設けることは必須ではなく、適宜学校運営上のその他の調査等と併せて実施

★ 上記のフローは順序性を固定的に定めたものではなく、必要に応じ、柔軟かつ往還をしつつ進めることが重要

「3ステップ」によるカリキュラム・マネジメント

手段の目的化を防ぎ、基本的な考え方とプロセスを一体的にわ
 テップ」の循環として再整理
 その中核的な方策として、調整授業時数制度や単位制の柔軟

②-2 ステップⅡ：人的・物的環境の整備

- ・校内組織、指導体制の整備
- ・教材、学習環境の整備
- ・人的支援体制の構築 等

②-1 ステップⅡ：教育課程の編成・実施・調整

- ・時数の調整、活動選択、日課表の検討
- ・単元の配列（重点、横断）
- ・指導方法や指導形態の工夫改善 等

① ステップⅠ：ねらいの明確化

- ・子供の実態に応じる
- ・教育目標と照合する 等

を捉えにくい
 ↓
 基本的な考え方とプロセスを
 として分かりやすく示す
 視点で組み立てていくこと

ステップⅡ. 編成・実施・調整

ステップⅢ. 評価・改善

新たなカリキュラム・
 マネジメントの考え方
 (カリマネの3ステップ)

ねらいの明確化

- ・見取りや各種調査・デジタル学
習基盤から得られるデータを基に
実態把握
- ・学校教育目標等を踏まえ、育
成を目指す資質・能力や指導
上の課題の共通理解を図る
- ・必要に応じ学校教育目標や学
校経営方針等の見直し 等

教育課程の編成・実施・調整

- ・ねらいの実現に向け、教科等の時数・日課等を検討
- ・教科等横断的な視点を踏まえ、単元を構成・配列
- ・実態や年度途中に生じた課題に応じて、教育課程を柔軟に調整
- ・何を実施するかだけでなく、ねらいに照らした取組の重点化も重視 等

人的・物的環境の整備

- ・ねらいの実現に向け、校務分掌等の校内体制整備、備品・教材等の確保
- ・学校運営協議会や保護者、地域等と連携した体制構築 等

ねらいの実現状況の把握と 評価・改善

- ・学習評価の状況や、児童生徒
向けアンケート・ヒアリング、学校
関係者評価等を通じてねらいの
達成状況を把握（※2）
- ・把握した状況を踏まえ、教育課
程や授業の改善に向けた評価・
改善の検討

時数・単位数の柔軟な調整や、裁量的な時間の活用等（※1）

調整授業時数制度や柔軟な単位制の活用

（※1）各ステップで裁量的な時間（研究・研修等枠）を適宜活用

（※2）カリマネのための把握手続を設けることは必須では
なく、適宜学校運営上のその他の調査等と併せて実施

★上記のフローは順序性を固定的に定めたものではなく、必要に応じ、柔軟かつ往還をしつつ進めることが重要

① ステップI

現在の学習指導要領 総則 第2 教育課程の編成

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1 に基づき定められる目標との関連を図るものとする

長期目標

「教育目標」

・目標分析

・実態把握

短期目標

育成を目指す「子供の姿」「資質・能力」を明らかにする

計画概要

「グランドデザイン」

① ステップⅡ

現在の学習指導要領 総則 第2 教育課程の編成

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1 に基づき定められる目標との関連を図るものとする

長期目標

「教育目標」

・目標分析

・実態把握

短期目標

育成を目指す「子供の姿」

①時数の調整(コマ移動or単位時間縮減)

②三つのタイプ(A、B、C)から選択



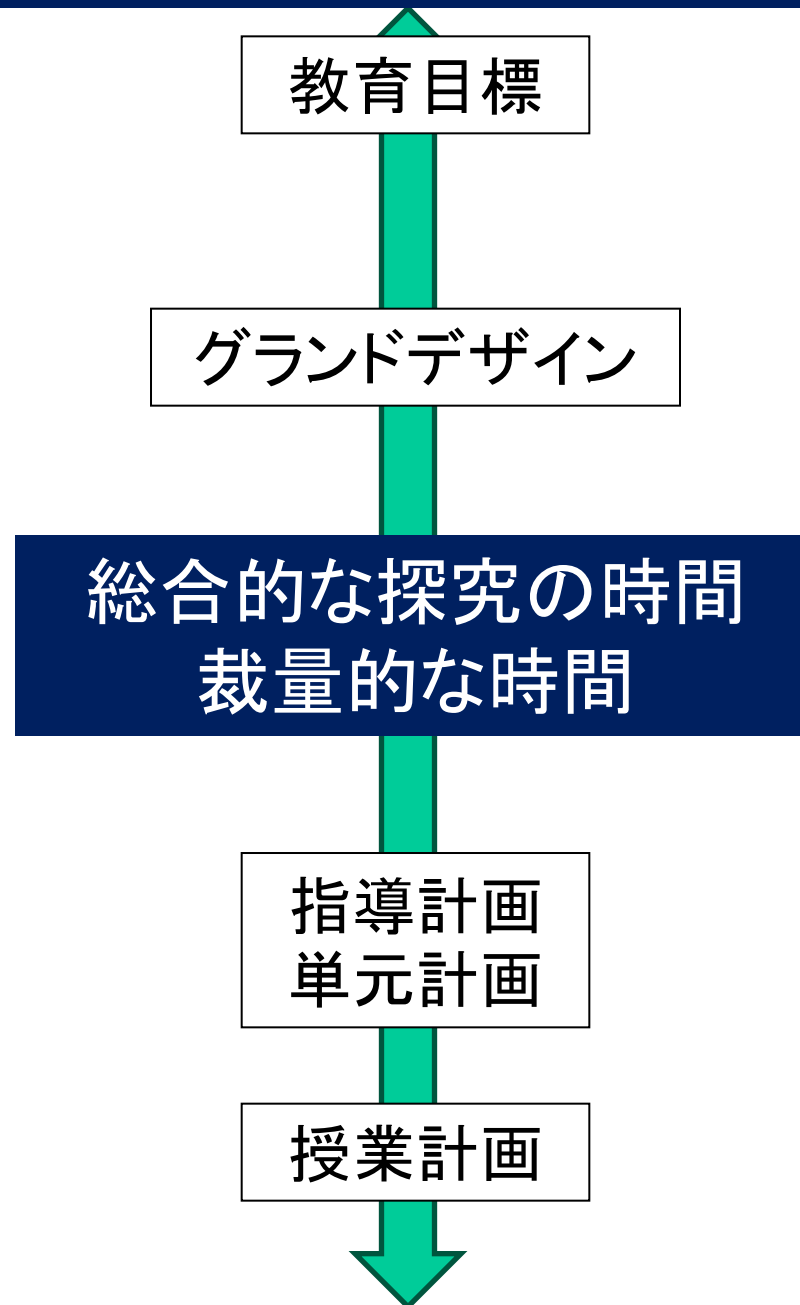
【例:総合的な探究の時間・裁量的な時間】
指導計画の立案・実践・改善

・教育課程編成

計画概要

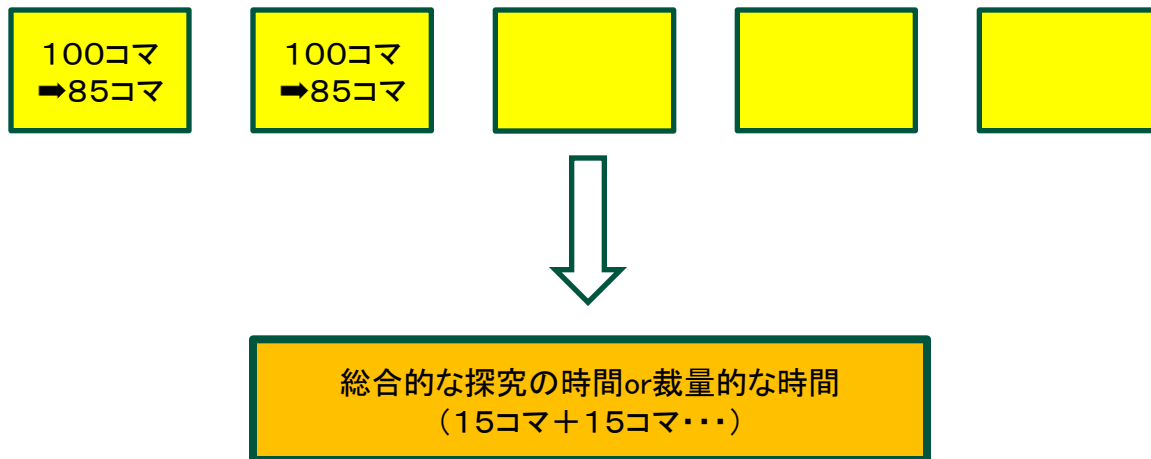
「グランドデザイン」

②-1 ステップⅡ(シンプル・単一)

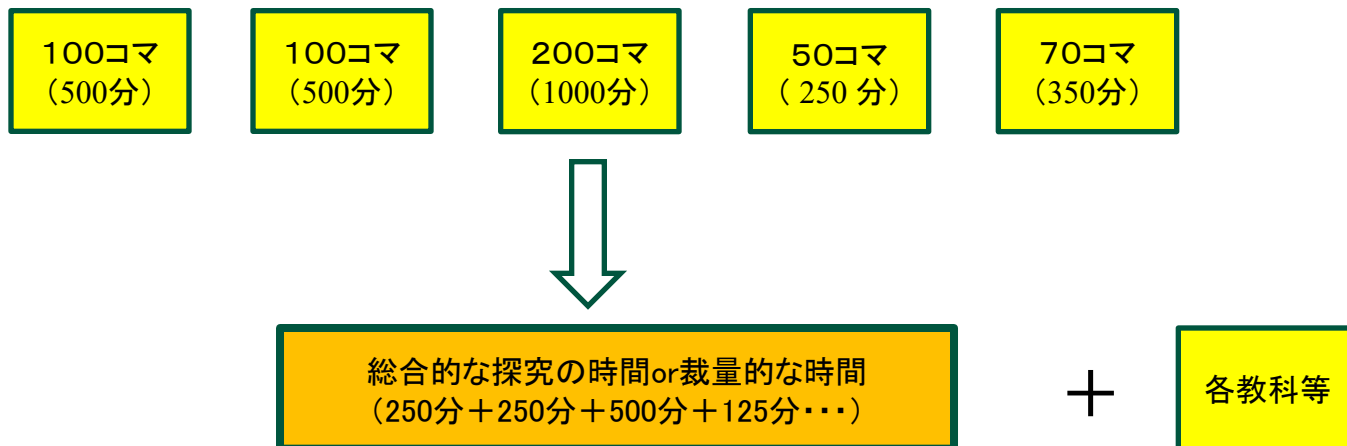


■「調整授業時数制度」(例: 中学校)

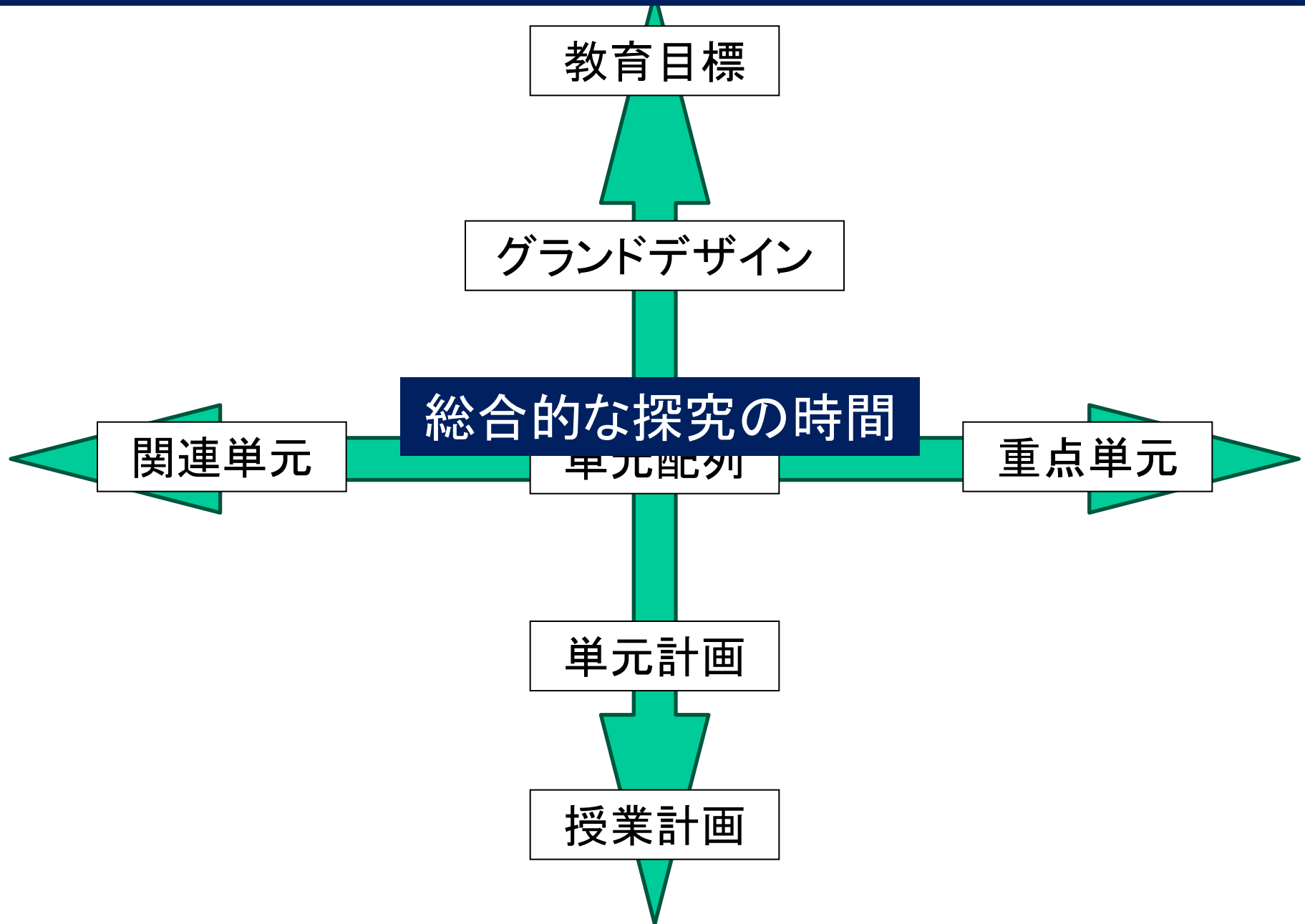
① 1 単位時間は50分を基本としてコマを減らして移動する



② 1 単位時間は45分を基本としてコマを確保して移動する

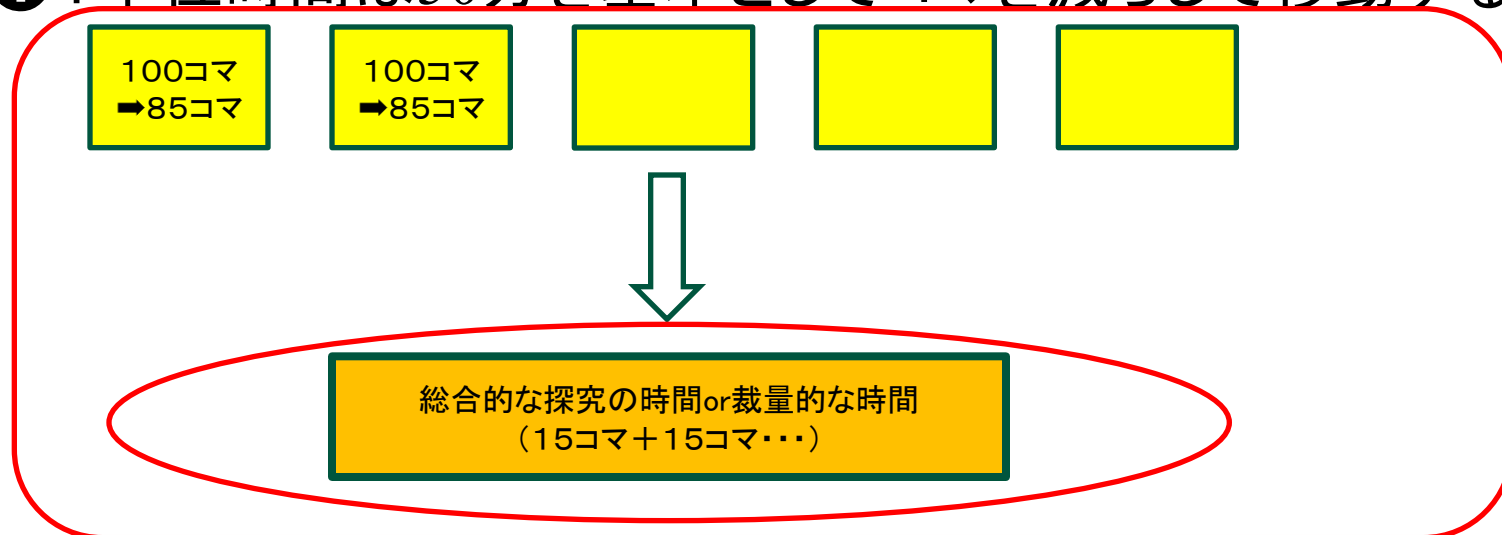


②-1 ステップⅡ(複雑・横断)

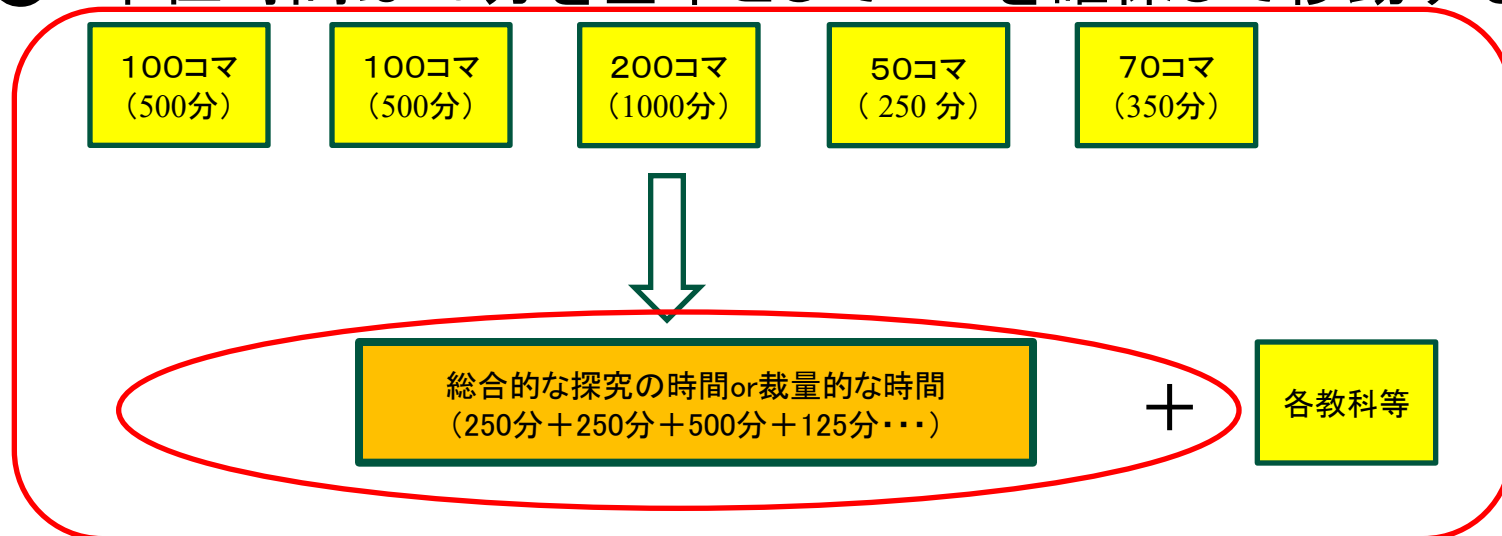


■「調整授業時数制度」(例: 中学校)

① 1 単位時間は50分を基本としてコマを減らして移動する

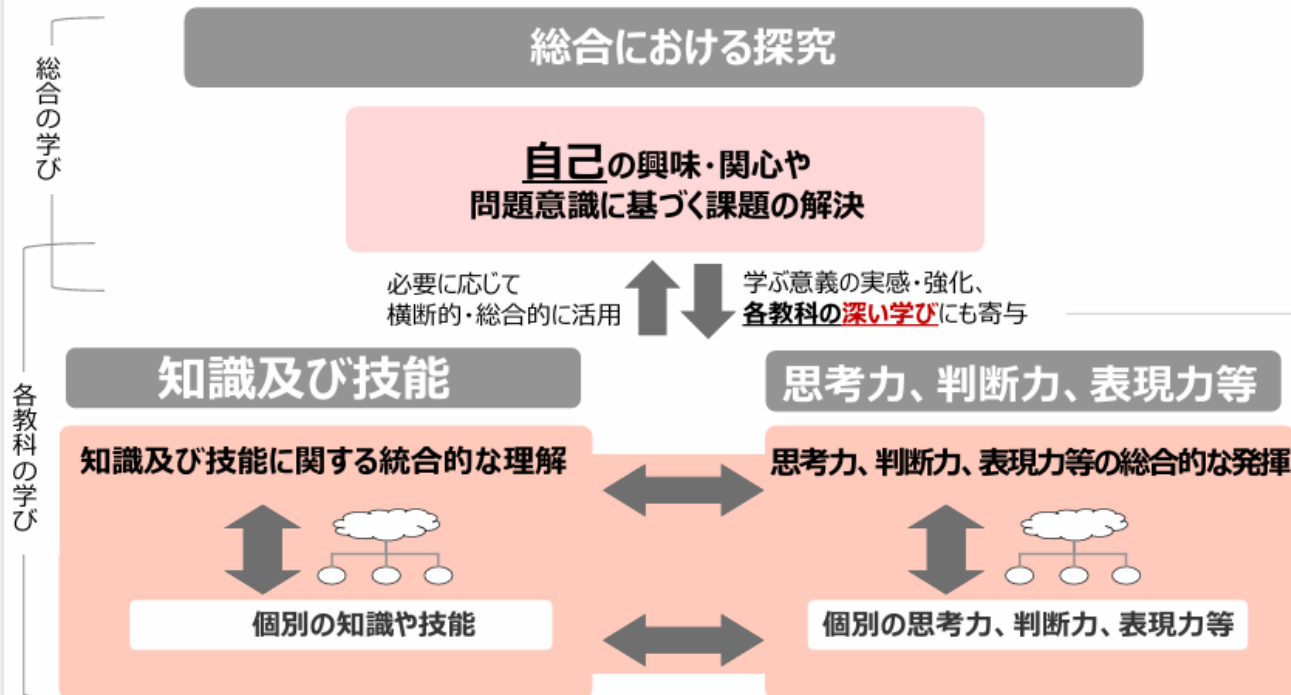


② 1 単位時間は45分を基本としてコマを確保して移動する



「深い学び」をめぐる総合と各教科の関係について（イメージ）

- 総合における探究と各教科の「深い学び」との関係について以下のとおり整理し、参考資料等の形ですることが適当。



（具体的な観点の例）

- ✓ 興味・関心等に基づき設定した課題に関わる知識や思考を横断的・総合的に活用しつつ、言語能力や情報活用能力を発揮して表現（外化）し、自分なりの意味や理解を構築する学習過程を経て、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の一体的育成につながるとともに、言語能力や情報活用能力の育成を媒介して、各教科の学びにも寄与
- ✓ 自ら設定した課題を起点として学習過程の充実を図る中で、動機づけ方略、学習方略、メタ認知的方略など方略の活用による学習過程の自己調整等を促し、学びに向かう力（学びの主体的な調整）の育成を媒介して教科等の深い学びに寄与

総合的な学習・探究の時間と各教科等の関連

